

令和6（2024）年度総合型選抜【11月4日（土）-5日（日）実施】の、「講義の聴講及び講義に関する課題レポート」について、2分野から各1題を出題しました。各課題のタイトルおよび出題意図は以下の通りです。

1. 『ゲノム編集の現状と課題』

ゲノム編集技術は、生物の遺伝情報を書き換える技術であり、研究の世界だけでなく、産業界、さらには医療の世界を大きく変えようとしている。本講義では、まず、ゲノム編集とはどのような技術かを解説し、次いで、ゲノム編集技術の食品や医療への応用について、その現状を解説した。課題レポートでは、まず、DNAの塩基の組成を計算することを求めた。次いで、ゲノム編集とはどのような技術かについて説明を求め、さらに、ゲノム編集技術を食品や医療に応用する場合の利点と問題点について論ずることを求めた。これらにより、計算力、理解力、論理的思考力、論述力等を評価した。

2. 『働き方の多様化と所得税の負担』

サラリーマンと個人事業主では所得税の計算や納税に関する手続きが大きく異なるが、働き方が多様化することで両者の区別が曖昧になってきた。サラリーマンの中には、リモートワークの普及によって、勤務する場所や時間の拘束が緩やかになった者もいる。一方、個人事業主の中にはフリーランスのように一人だけで事業を営んでいる者も多く、更にそれらの中には労働実態が被用者に近いものも存在する。講義では、働き方の違いによって生じる税負担の格差を是正するために行われた所得税法の改正の一部を概説し、その内容が租税原則（公平、中立、簡素）の観点からどのように評価されるのかについて論じることを求めた。これらにより、社会課題への関心、論理的思考力、表現力等を評価した。